

独立した第三者保証報告書

株式会社コーセー
代表取締役社長 小林 一俊 殿

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社(以下、「SOCOTEC」という。)は、株式会社コーセー(以下、「会社」という。)からの委託に基づき、会社が作成した主題情報(“2022年度 GHG 排出量(Scope1・2)算定報告書、2022年度 GHG 排出量(Scope3)算定報告書 及び 2022年度 水関連データ報告書 (以下「2022年度 GHG 排出量および水関連データ報告書」という。)”(期間：2022年1月1日～2022年12月31日))がすべての重要な点において規準に適合しているかについて限定的保証業務を実施した。

1 主題情報と規準

保証対象となる主題情報は、“2022年度 GHG 排出量および水関連データ報告書”(期間：2022年1月1日～2022年12月31日)に記載された会社と会社の連結会社(日本国内子会社13社、海外子会社14社)(水については国内外生産拠点5拠点)における日本及び海外の運営及び活動を対象範囲とする、“エネルギー起源 CO2 排出量(Scope1,Scope2(ロケーション基準、マーケット基準)及び企業のバリューチェーンで発生するその他間接 GHG 排出量(Scope3(カテゴリ：1,2,3,4,5,6,7,11,12))及び水関連データ(取水量、排水量及び使用量)に関する報告”である。

主題情報を作成する規準は“GHG 排出量(Scope1・2)算定規定 第1.4版、GHG 排出量(Scope3)算定手順書 第1.3版及び水関連データ算定規定 第2.0版”である。

主題情報 期間：2022年1月1日～2022年12月31日	
エネルギー起源 CO2 排出量 Scope1 : 6,405.844 t-CO2e Scope2 : ロケーション基準 14,023.727 t-CO2e マーケット基準 10,770.040 t-CO2e	企業のバリューチェーンで発生するその他間接 GHG 排出量 Scope3 : 668,982.916 t-CO2e 内訳(t-CO2e) カテゴリ-1 : 293,772.278 カテゴリ-2 : 17,171.800 カテゴリ-3 : 3,823.059 カテゴリ-4 : 100,213.251 カテゴリ-5 : 3,554.798 カテゴリ-6 : 1,873.466 カテゴリ-7 : 3,892.176 カテゴリ-11 : 237,185.540 カテゴリ-12 : 7,496.548
水関連データ 取水量 : 303,761.79 m ³ 排水量 : 187,004.84 m ³ 使用量 : 117,986.75 m ³	

2 経営者の責任

“2022年度 GHG 排出量および水関連データ報告書”(期間：2022年1月1日～2022年12月31日)は、会社の経営者によって作成された。

会社の経営者は、そこで行われている主張、陳述及び主張の完全性(限定的保証を提供するために従事してきた主張を含む)、報告書内の全てのデータ及び情報の収集、定量化及び提示ならびに適用した規準、分析及び公表に責任がある。

会社の経営者は、報告プロセスをサポートし、故意または過失によるものであるかどうかにかかわらず、“2022年度 GHG 排出量および水関連データ報告書”(期間：2022年1月1日～2022年12月31日)に重大な虚偽記載がないことを保証するように設計された適切な記録及び内部統制を維持する責任がある。

3 保証会社の責任

SOCOTEC の責任は、主題情報がすべての重要な点において規準に準拠して作成されているかどうかについて、限定的保証の結論を表明することにある。

SOCOTEC は、SOCOTEC の定める検証手順及び「ISO14064-3 温室効果ガスに関する主張の妥当性確認及び検証のための仕様並びに手引」並びに国際監査・保証基準審議会(IAASB)の国際保証業務基準(ISAE)3000(改訂)「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」に準拠し、限定的保証業務を実施した。

限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務で実施する手続と比べて、その種類、時期、範囲において限定されている。その結果、SOCOTEC が行った限定的保証業務は、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。

SOCOTEC が実施した手続は、不正又は誤謬を問わず重要な虚偽表示のリスクの評価をはじめとして、職業的専門家としての判断に基づいている。SOCOTEC の結論は、会社の内部統制に対して保証を提供するものではない。

SOCOTEC は、限定的保証における結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

4 保証手続

SOCOTEC が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、以下を含んでいるがそれらに限定されない。

- 会社が主題情報に関連して作成した方針や手続の評価
- 上記方針手続を理解するための会社担当者への質問
- 対象プロジェクトが適格性要件を満たしているかの確認
- 試算による根拠資料との照合、再計算
- 重要な仮定や他のデータに関する根拠資料の入手、照合
- 算定体制と手順の確認、データの収集及び記録管理の実施状況を確認するため、会社の本社及び株式会社アルビオン 熊谷工場、コーセイインダストリーズ株式会社 群馬工場、狭山工場を視察した。

5 独立性と品質管理、力量の声明

SOCOTEC は、「ISO17021 適合性評価-マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項」の認定要求事項に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。又「ISO14065 温室効果ガス-認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項」に従ってマネジメントシステムを確立している。これらは国際監査・保証基準審議会による国際品質管理基準 1 と国際会計士倫理基準審議会による職業会計士の倫理規定における要求を満たすものであり、倫理規則、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の遵守に関する文書化した方針と手続を含む包括的な品質管理システムを維持している。

SOCOTEC グループは、検査、試験、検証業務における総合的な第三者機関であり、世界の国々で品質、環境、労働及び情報セキュリティにかかわるマネジメントシステム認証業務やトレーニングサービスを実施しており、環境、社会情報のパフォーマンスデータ及びサステナビリティ報告書保証業務を行っている。SOCOTEC は、本保証業務を依頼した組織やその関連会社、ステークホルダーからも独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触がないことを断言する。

本保証業務に携わったチームは、知識や当該産業分野における経験、そして本保証業務に関する力量基準に基づき構成されていることを保証する。

6 報告書の利用

限定的保証業務における SOCOTEC の責任は、合意した条件に基づいて、会社の経営者にのみ負うものである。従って、目的にかかわらずそれ以外のいかなる個人や組織に対しても責任を負わない。

7 結論

SOCOTEC が実施した手続及び入手した証拠に基づいて、主題情報が規準に準拠して作成、開示されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社
執行役員社長 二場 誠吾



Seigo Futaba

2023年7月24日